

四季鳥 の鳥

私たちの近くに息づく野生

[文・写真] 中田一真

サシバ — 空に続くタカの道



これまで一体何日、秋の空を仰ぎ見てきたことだろう。伊良湖岬、日の岬、竜飛崎……。観察場所を転々としながらも、秋になればどこかの岬に出かけ、日がな一日、空を眺める。そこには、目に見えないタカの道がある。繁殖を終えたタカの仲間が静かに渡る、越冬地へと続く空の道が。

徳島県鳴門市の渦潮の見える展望台。近年では私の最もお気に入りの場所の一つだ。淡路島を対岸に見、眼下には渦潮と大鳴門橋。展望台に集うのは、地元の野鳥の会の面々だ。青森で勤務していた頃、何かに書いた竜飛崎のタカの渡りの記事を読んだ、メールをくださったのが徳島のUさん。私が関西勤務に戻ると、鳴門での観察に誘ってくれた。タカが運んでくれた縁だ。

「橋の上、続々と来ています」。双眼鏡をのぞきながら、Uさんがタカの飛来を告げる。いくつもの双眼鏡や望遠レンズが一斉にそちらを向く。羽ばたきながら近づいてきたサシバが、展望台の上で気流をつかみ、旋回を始めると、「ウワッ」と歓声が上がった。

秋晴れの日、しばし仕事の手を止めて空を眺めてみるのも悪くない。そこには、空の道をたどるタカの姿があるかも知れない。

なかた・かずま

1966年生まれ。会社員、野鳥写真家。
身近な鳥たちの四季折々の姿を20年撮影し続けている。

【中田一真のホームページ】

<http://www.asahi-net.or.jp/~jx7k-nkt/>